

高知県における公立小中学校の学力向上に向けた取組 —「全国学力・学習状況調査」の動向—

岩崎 保道

高知大学 人文社会科学系 教育学部門

Efforts for raising the academic level of public elementary and middle schools in Kochi prefecture

Trends in the "National assessment of academic ability and survey on learning situations"

Yasumichi IWASAKI

キーワード：公立小学校 公立中学校 高知県教育委員会 全国学力・学習状況調査

I. はじめに

本稿は、高知県教育委員会による児童生徒の学力向上に向けた取組を紹介するとともに、その状況を概観するものである。具体的な検討方法として、高知県の「高知県学校改善支援プラン」(2008年)及び「学力向上・いじめ問題等対策計画」(計画期間2008～2011年度)を紹介したうえで、「全国学力・学習状況調査」結果における公立小中学校の平均正答率や児童生徒への質問に対する回答について、高知県及び全国の経年変化の状況分析や比較検討を行う。平均正答率に関する分析方法として、全国と高知県における「平均正答率の国語Bと算数Bの相関関係」、「平均正答率のポイント差」をみる。児童生徒への質問に対する回答については、「勉強、遊戯に費やした時間」を可視化し、その推移をみる。以上の考察を踏まえ、高知県における学力の動向を概観する。

高知県では、1990年代より、学力向上が大きな課題として取り上げられていた。1995年の県知事選挙において、橋本大二郎氏が公約の一つに「土佐の教育改革」を掲げていた。この教育行政の改革は、同氏が当選後の1997～2006年度にかけて実施された。主な取組として、「子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上」、「教職員の資質・指導力の向上」、「家庭・地域の教育力の再生・向上」、「学校・家庭・地域の連携の強化」などが行われた。この教育改革は全国的にも注目され、研究対象になり論文等で公表された¹⁾。

その後、高知県教育委員会は「高知県学校改善支援プラン」(2008年)及び「学力向上・いじめ問題等対策計画」(計画期間2008～2011年度)により、学力向上に係る取組を行った。これら個別の計画の上位に位置付けられる総合的かつ体系的な計画として、高知県教育委員会は「高知県教育振興基本計画」(2010～2015年度)を策定し、「心身ともに健やかで「夢」と「希望」にあふれた土佐人を育てよう」、「生涯を通し学ぶ喜びに満ちた教育的な風土づくりを進めよう」などの基本方針を策定した。また、この計画期間中には基本計画の中で重点的に取り組む計画として位置付けて実施される「高知県教育振興基本計画重点プラン」(2012～2015年度)が策定され、その目標の一つとして「小学校の学力は全国上位に、中学校の学力は全国平均まで引き上げる」が掲げられた²⁾。

さらに、「第2期高知県教育振興基本計画」(2016～2019年度)においては、「知の分野の基本目標」として、「小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる」が掲げられた。

以上の政策的取組を経て、高知県における公立小中学校の学力は改善傾向にある。その動向を分析することは、地方における教育改革の成果を検証するうえでも重要な検討課題であると考えられる。

Ⅱ. 高知県における学力向上に向けた取組

高知県教育委員会は、「高知県学校改善支援プラン」(2008年)及び「学力向上・いじめ問題等対策計画」(計画期間2008～2011年度)の取組を行った。双方とも、高知県における教育課題を受けて講じられた対策である。

1. 「高知県学校改善支援プラン」

「高知県学校改善支援プラン」は、2007年度の全国学力・学習状況調査の結果における「中学校における学力の定着状況において、知識・技能やこれらを活用する力ともに大きな課題が見られた」、「家庭学習の時間や宿題をしている割合の全国との比較において、大きな課題がある³⁾」等の問題点を受け、高知県教育委員会が教員の授業力を高め、子どもたちが「確かな学力」を育成するために、高知県として重点的に取組む方策として提言したものである。

表1は、その方策の概要であり、2008年度より取組が開始された。視点1から4までは、「子どもを理解する力」、「教材を研究・開発する力」、「授業を構成する力」などを通じて授業力の向上を図り、「確かな学力」の育成につなげられる。このように、児童生徒の学力向上を目的として、学校組織面からガバナンスなどの強化充実を図る計画、教科指導の改善を図る計画、適切な学習環境の形成を図る計画、などが示された。特に、視点4では「④ 中学校の部活動の取り組みを見直し、家庭での学習時間を確保する。」と述べられており、家庭での学習時間が重視されている点に留意されたい。

表1 「高知県学校改善支援プラン」の概要

| 「高知県学校改善支援プラン」(高知県, 2008) | |
|---------------------------------------|--|
| 視点1 学校における組織的な学力向上 | |
| ① | 組織としての取り組みの弱さに課題がある。学校長のリーダーシップのもと、学力向上のためのPDCAサイクルの確立を図る。 |
| ② | 校内研究体制を見直し、組織力を向上させる。 |
| ③ | 研究のリーダーとなる教員を育成し、教員の意識改革を図る。 |
| 視点2 教科枠をこえた中学校授業力向上 | |
| ① | 中学校においては、授業を中心とした実践交流を推進する。 |
| ② | 全ての教科において、授業の基本となる学習展開(授業のスタンダード)を作成する。 |
| ③ | 国語科のみならず全ての教科において、「読む力」や「書く力」を育成する指導方法の工夫改善を行う。 |
| ④ | 生徒が授業で活躍する授業づくりのために授業力の向上を図り、授業改善を行う。 |
| 視点3 国語、算数・数学における指導方法の工夫改善 | |
| ① | 国語の学習においては、様々な文章の内容・情報を的確に読み取ることや、文章の中から読み取ったことを書き換えたり、自分の考えを書きまとめたりする活動を行う。 |
| ② | 算数・数学の学習においては、知識・技能の定着のために、基本的な問題の反復を行い、また、その学習内容を活用できる力を育成する。 |
| 視点4 学習意欲の向上と学習習慣の定着のための学習環境づくり | |
| ① | 授業と家庭学習のサイクル化を図り、家庭や地域と連携して学習環境づくりに取り組む。 |
| ② | 学び方や学ぶ意味が実感できる授業づくりに取り組む。 |
| ③ | 義務教育9年間で、小・中学校、家庭の役割を見直し、連携して学力向上を図る。 |
| ④ | 中学校の部活動の取り組みを見直し、家庭での学習時間を確保する。 |

2. 「学力向上・いじめ問題等対策計画」

高知県教育委員会は、2008年7月に「学力向上・いじめ問題等対策計画」(計画期間2008～2011年度)を策定した。当該計画は、深刻な中学校の学力問題をはじめ、いじめや不登校などの高知県が抱える教育課題の解決を図るために、これまでの取組の検証と、今後の方向性の検討を行ったうえで、緊急に取り組むべき具体的な内容をまとめたものである⁴⁾。その目標は、「高知県の将来を担う児童生徒の

学力や学習環境を保障する」ものであり、当面の目標として、「（１）学力をまずは全国水準にまで引き上げる」、「（２）生徒指導上の諸問題の発生率をまずは全国水準にまで改善する」などが掲げられた。（１）について、「全国的な義務教育の機会均等の観点から、児童生徒の学力や学習状況を測る全国学力・学習状況調査の結果等を参考指標の一つとしながら、本県の児童生徒の学力を全国水準にまで引き上げる」とされた⁵⁾。具体的には、「１ 学校・学級改革～児童生徒の基礎学力の定着と学力の向上～」、「２ 教員の指導力改革～教職員の指導力の向上～」、「３ 幼児教育改革～就学前の取組～」、「４ 心の教育改革～いじめ・不登校等対策～」、「５ 放課後改革～家庭における取組への支援～」、「体力づくり～体力・運動能力の向上～」が盛り込まれた。特に、５に関わる方策として「子どもたちが、家庭での学習習慣を身につけるために、小中学校 PTA と協働して家庭学習や読書時間の確保、家庭内でのルールづくりに取り組む。」と述べられており、家庭学習が重視されている点に留意されたい。

Ⅲ. 高知県の公立小中学校における学力の動向

本章は、「全国学力・学習状況調査」結果を基に高知県の小中学校における学力の動向及び児童生徒への質問項目の一部について分析する。具体的には、同調査より、全国と高知県における「平均正答率の国語 B と算数 B の相関関係」、「平均正答率のポイント差」、「勉強、遊戯に費やした時間」を可視化し、その推移をみる。「勉強、遊戯に費やした時間」を取り上げた理由は、同調査のクロス集計表（2016 年度）の結果より、平均正答率と「勉強、遊戯に費やす時間」の関係が強いと考えられるため、このデータも加味して分析する意義があると考えたからである⁶⁾。また、「高知県学校改善支援プラン」（2008 年）及び「学力向上・いじめ問題等対策計画」（計画期間 2008～2011 年度）において、家庭学習や家庭での学習時間が重視されている。

高知県における小中学校の学力について、2009 年度に高知県教育長は「本県の小中学生の学力は国語・算数数学ともに依然として厳しい状況にあります。小学生の平均正答率は全国平均正答率より 1.0～2.7 ポイント低く、中学生の平均正答率も 2.8～7.2 ポイント低い状況です。しかしながら、中学校は国語、数学ともに全国との差が徐々に縮まっており、昨年度から実施している中学校の学力向上対策の成果の現れと評価することができます」と述べている⁷⁾。

さらに、2016 年度に高知県教育長は「質問紙調査の結果を見ますと、「学校の授業時間以外に勉強している時間が 1 時間以上」の小学生の割合は全国平均を上回っており、中学生についても年々増加し、全国平均に近づいてきています。こうした結果からも、小・中学生には、学習習慣の定着が図られてきていることがうかがえます。」と述べている⁸⁾。以上のコメントより、高知県の小中学校の学力は全国と比較して向上傾向にある状況が伺える。

1. 高知県の公立小学校における学力の動向

「全国学力・学習状況調査」における高知県の公立小学校の状況についてみてみよう⁹⁾。

図 1 は、全国における小学校における国語 B と算数 B の平均正答率の相関関係である。2008 年度は全国と高知県の位置が離れていたが、2016 年度は同じ位置付けになった。

図 2 は、公立小学校における高知県の平均正答率と全国平均正答率のポイント差の推移をみたものである¹⁰⁾。2012 年度までは、国語 B 及び算数 B のマイナスが目立っていたが、国語 A 及び算数 A は 2013 年度以降にプラス値を顕著に伸ばしており、2016 年度の国語 B 及び算数 B はゼロになった。

図 3 は、公立小学校における勉強に費やした時間を点数化したものである¹¹⁾。一貫して高知県が全国より高く、その点数差について 2008 年度は 0.90 ポイントだったが、2016 年度は 0.13 ポイントと開きがある。

図 4 は、公立小学校における遊戯に費やした時間を点数化したものである。2013 年度までは高知県が全国より高かったが、2014 年度以降はほぼ同水準で推移している¹²⁾。

以上を総括すると、図 2（平均正答率のポイント差）では 2013 年度における国語 A 及び算数 A の差異がプラスに転じており転換期と思われる。図 3（勉強に費やした時間の点数化）では 2013 年度の高知県の点数が 1.77 点まで上昇し（前年度より 0.09 点プラス）、この時点で高知県は全国より 0.18 ポイント高くなった。また、図 4（遊戯に費やした時間の点数化）では、2008～2014 年度にかけて高知県

及び全国ともに減少しており、前者の点数がやや高いものの、その差異は2008年度で1.84ポイント、2014年度は0.87ポイントと縮小している。

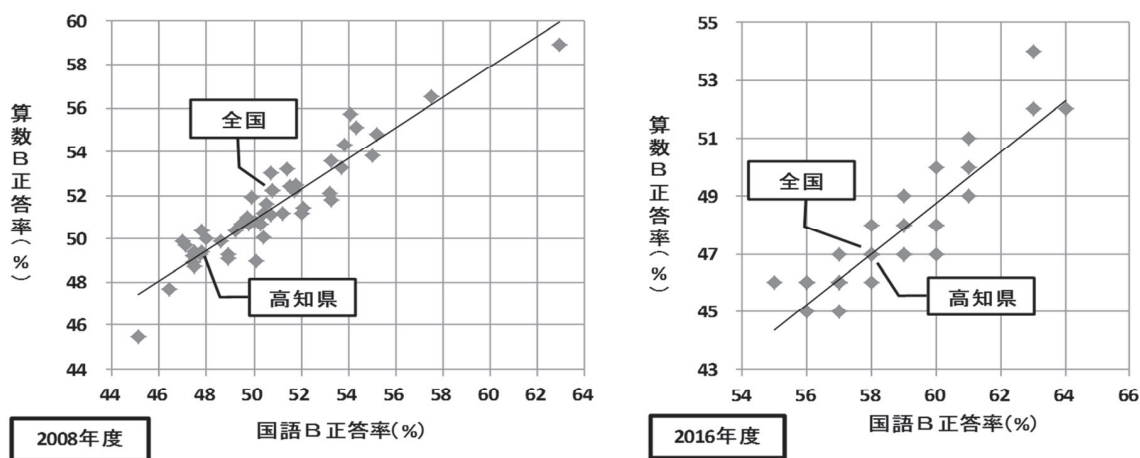


図1 公立小学校における国語Bと算数Bの平均正答率の相関関係(%) (国立教育政策研究所, 各年度, 「全国学力・学習状況調査」より算出)

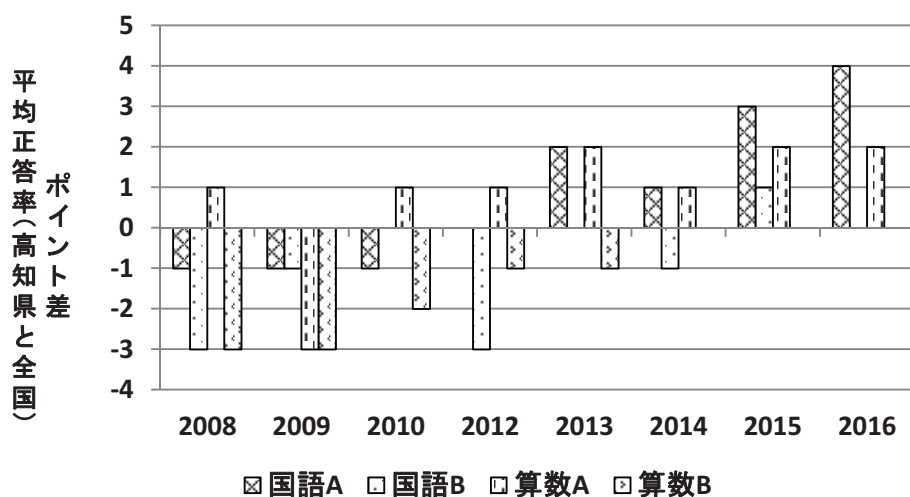


図2 公立小学校における平均正答率のポイント差 (計算式: 高知県の平均正答率(%) - 全国の平均正答率(%)) (国立教育政策研究所, 前掲書より算出)

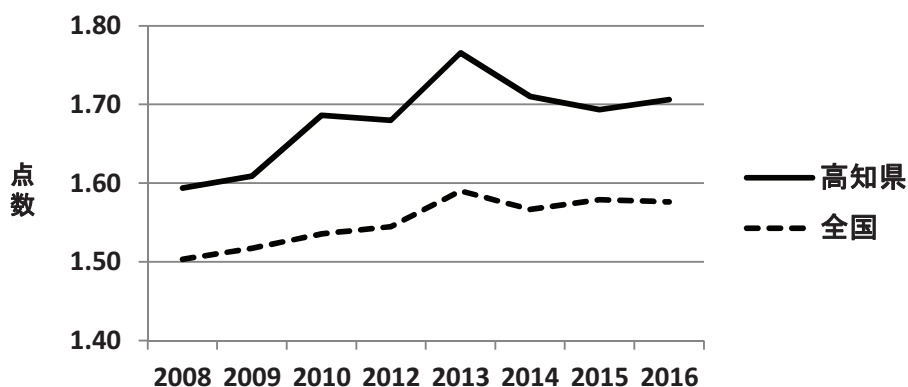


図3 公立小学校における勉強に費やした時間の点数化 (国立教育政策研究所, 前掲書より算出)

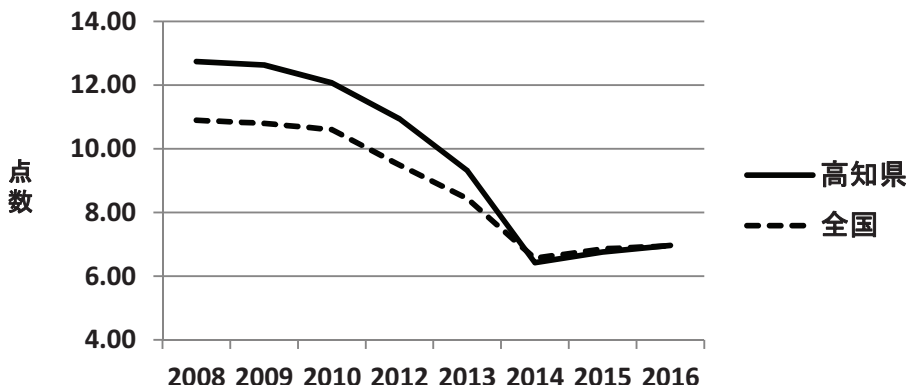


図4 公立小学校における遊戯に費やした時間の点数化（国立教育政策研究所，前掲書より算出）

2. 高知県の公立中学校における学力の動向

「全国学力・学習状況調査」における高知県の公立中学校の状況についてみてみよう¹³⁾。

図5は、全国における中学校における国語Bと数学Bの平均正答率の相関関係である。2008年度は全国と高知県の位置が大きく離れているが、2016年度はその差がやや狭まっている。

図6は、公立中学校における高知県の平均正答率と全国の平均正答率のポイント差の推移をみたものである。全てのマイナス値が減少傾向にあり、国語Aのポイント差は僅かに縮まったが、数学Bのポイント差は開いたままである。2008年度と2016年度のマイナス値を比較すると、国語Aは3ポイント、国語Bは5ポイント、数学Aは5ポイント、数学Bは3ポイント減少した。

図7は、公立中学校における勉強に費やした時間を点数化したものである¹⁴⁾。高知県が全国より高い値について、2008年度の点数差は0.18ポイントだったが、2013年度は0.03ポイントに縮まった。しかし、2016年度は0.06ポイントに開いている。

図8は、公立中学校における遊戯に費やした時間を点数化したものである¹⁵⁾。高知県が全国より高い値について、2008年度の点数差は2.14ポイントだったが、2013年度は0.65ポイントに縮まった。2014年度以降は、同水準で推移しており、2016年度は全国が高知県より0.09ポイント高くなった。

以上を総括すると、図6（平均正答率のポイント差）のマイナス値は緩やかに縮小しているが、依然、開きがある。図7（勉強に費やした時間の点数化）では、高知県が全国より低い状況は解消されていない。図8（遊戯に費やした時間の点数化）では、2008～2013年度にかけて高知県と全国の差異が縮小しており、2014年度以降はほぼ同水準になった。

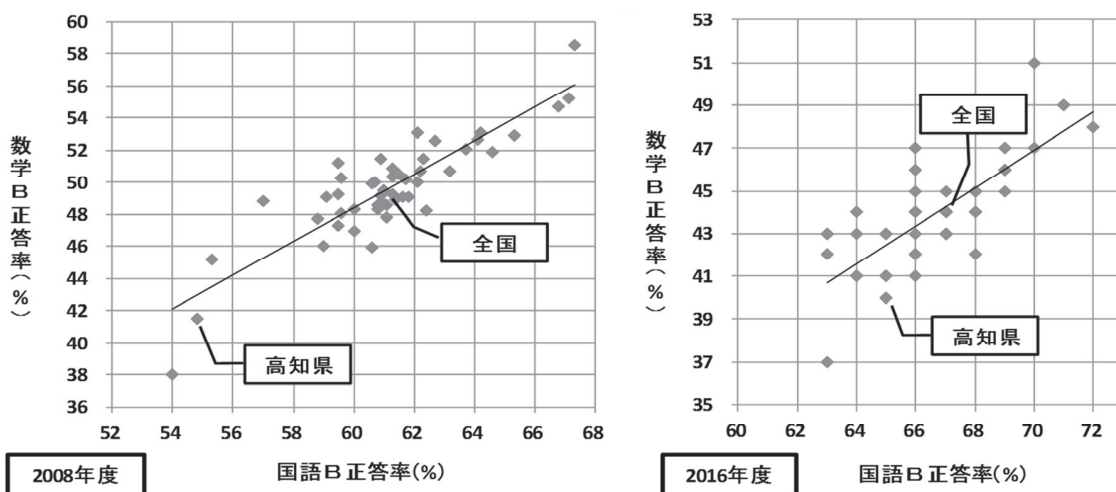


図5 中学校における国語Bと数学Bの平均正答率の相関関係（%）（国立教育政策研究所，前掲書より算出）

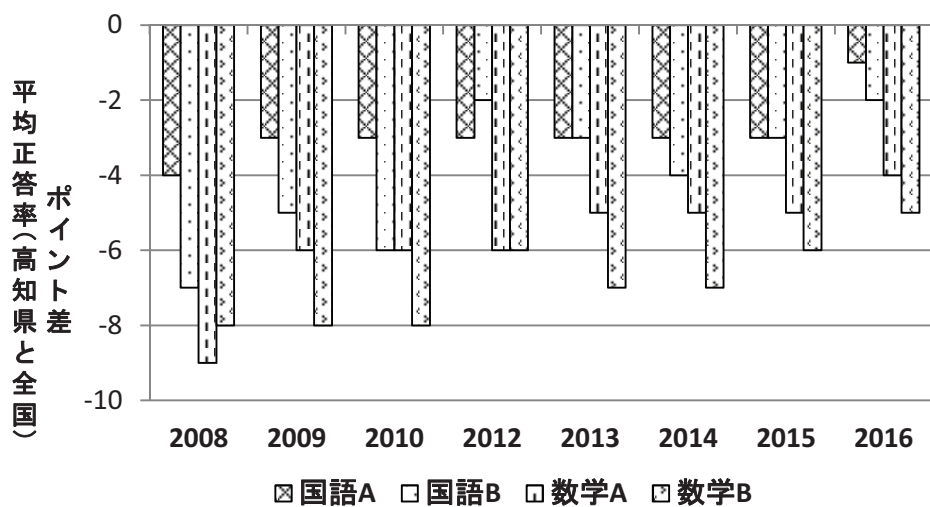


図6 公立中学校における平均正答率のポイント差（計算式：高知県の平均正答率（％）－全国の平均正答率（％））（国立教育政策研究所，前掲書より算出）

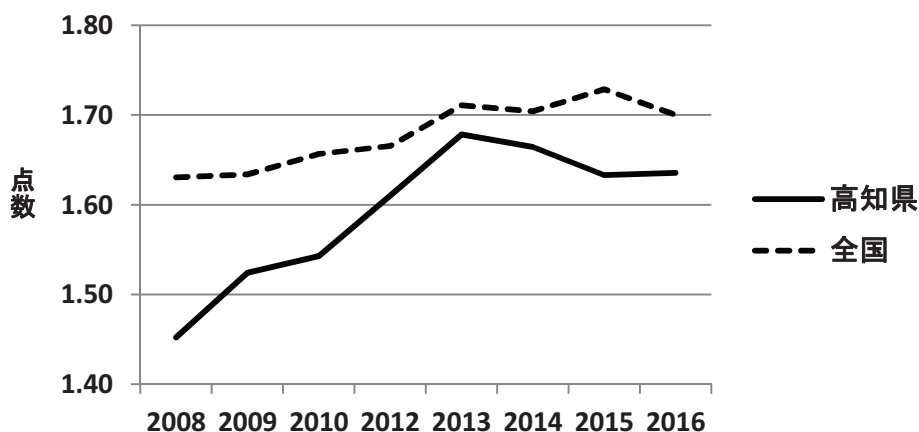


図7 公立中学校における勉強に費やした時間の点数化（国立教育政策研究所，前掲書より算出）

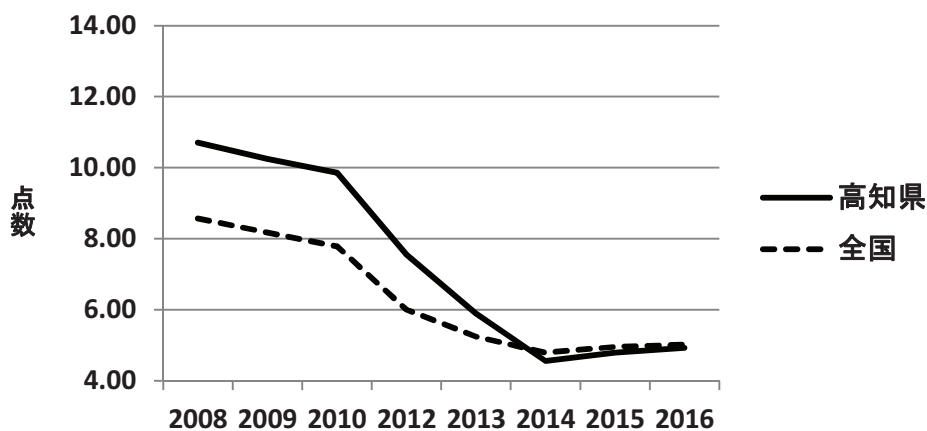


図8 公立中学校における遊戯に費やした時間の点数化（国立教育政策研究所，前掲書より算出）

IV. 小括

本稿は、高知県教育委員会による児童生徒の学力向上に向けた取組を紹介するとともに、その状況を概観することを目的として、「全国学力・学習状況調査」結果における高知県と全国のデータの比較検討を中心とした分析を行った。その結果、高知県の公立小学校における学力は向上していることが確認できた。この点は、Ⅲ章で紹介した高知県教育長のコメント（2016年）の裏付けとなる結果であった。

高知県においては「高知県教育振興基本計画」の下、学力向上が重要課題にあげられ、小学校の学力は上位を目指し、中学校の学力は全国平均以上に引き上げることが目標として掲げられた。「高知県学校改善支援プラン」（2008）や「学力向上・いじめ問題等対策計画」（計画期間2008～2011年度）など、様々な政策的取組の成果が上述の学力調査結果に結び付いているものと推察される。

背景の一つとして考えられるのが、公立小学校については高知県が全国に比べて「勉強に費やした時間」の多さと「遊戯に費やした時間」の格差縮小である。公立中学校については、「遊戯に費やした時間」について、高知県と全国の格差縮小がみられるものの、高知県が全国に比べて「勉強に費やした時間」が少ない状況が考えられる。公立中学校は、「勉強に費やした時間」の格差をどのように縮小していくかが課題になるのではないかと考えられる。

授業時間以外での学習機会については、放課後学習教室や土曜スクール、基礎学力向上のための学習会など、家庭学習以外の児童生徒の時間外を活用した学力向上への取組がある。このなかには、勉強の習慣や方法を身に付けるとともに、学習意欲の向上を図ろうとするものがある。

本稿は、児童生徒への質問における「勉強、遊戯に費やした時間」に留意して分析したが、別の観点（例えば「社会性の育成」、「基本的生活習慣」、「読書時間」など）や学校に対する質問結果（例えば「授業態度に関するもの」、「教科指導に関するもの」、「研修に関するもの」など）を踏まえた分析を包括的に行うことで、新たな課題がみえてくるだろう。今後の課題として、検討する意義があると考えられる。

注・文献

- 1) 主な研究成果として、次の論文がある。内田純一（2006）：「現代教育改革研究に関する一考察－教育改革主体の形成と「土佐の教育改革」」『高知大学教育学部研究報告』（66）. 内田純一（2008）：「現代教育改革研究に関する一考察（その2）「土佐の教育改革」における地域教育の創造」『高知大学教育学部研究報告』（68）. 神山正弘（2007）：「「土佐の教育改革」の研究（現代の教育改革と教育委員会）－（特集 現代の教育改革の動向と教育委員会）」『民主教育研究所年報』（8）『民主教育研究所年報』.
- 2) 高知県教育委員会（2014）：「高知県教育振興基本計画 重点プランの概要」.
- 3) 高知県検証改善委員会の分析では、「学校の授業時間以外で1日当たり1時間以上勉強している割合は、小学生は全国とほぼ同様であるが、中学生は全国と比べて著しく少なくなっている。また、勉強を全くしない中学生の割合も全国と比べて多い。」という指摘がされた（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/08013006/003/041.htm）。
- 4) 高知県教育委員会：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/kinkyu-plan.html>, 2017年6月9日確認。
- 5) 高知県教育委員会（2008）：「学ぶ力を育み 心に寄りそう緊急プラン～「学力向上・いじめ問題等対策計画」～」<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/kinkyu-plan.html>
- 6) 「全国学力・学習状況調査」クロス集計表（2016年度）の質問項目「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）」、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）」において、遊戯に費やす時間が多いほど平均正答率が低くなる傾向があった。また、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくら

いの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」において、勉強に費やした時間が多いほど平均正答率が高くなる傾向があった。

- 7) 高知県ウェブサイト：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/gakuryokutyousa.html>, 2017年6月8日確認。
- 8) 高知県ウェブサイト：同上。
- 9) 国語Bと算数Bの相関係数は、2008年度は0.93点、2016年度0.90点と正の相関が認められた。
- 10) この数値がマイナスだと高知県の平均正答率が低く、プラスだとその逆になる。
- 11) 勉強に費やした時間に関わる質問項目（「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」）の回答について、時間数が最も多いものを5点とし、時間数に応じて0～5点に配分して点数化した。
- 12) 遊戯に費やした時間に関わる質問目（「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）」、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）」）の回答について、時間数が最も多いものを5点とし、時間数に応じて0～5点に配分して点数化した。
- 13) 国語Bと数学Bの相関係数は、2008年度は0.88点、2016年度0.77点と正の相関が認められた。
- 14) 算出方法は注11)に準じる。
- 15) 算出方法は注12)に準じる。